

柏の景気情報（平成20年5月分）

柏商工会議所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成20年5月分）

○ 調査期間 : 平成20年5月19日 ~ 5月26日

○ 調査対象 : 柏市内111事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	111	76	68.5%
建設	19	14	73.7%
製造	26	19	73.1%
卸・小売	43	27	62.8%
サービス	23	16	69.6%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成20年5月の調査結果のポイント】

《業況DIは30ポイント台へ回復したが、原材料高騰により引き続き厳しい状況》

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.2(前月水準▲41.9)となり、マイナス幅が△7.7ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.2(同▲20.0)、卸小売業▲40.7(同▲54.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲42.8(同▲38.4)、サービス業▲50.0(同▲47.0)である。

【建設業】では、「当社の様に車を77台も所有していると、ガソリンの高騰は経費がかかり、今まで以上に採算が合わない場合が多くなった。駐車場の確保、お客様の所に行った時の駐車料金も多くなっている」(家庭用機械器具小売業)、「発注時期になったものの、材料値上げで利益確保が難しい物件が多い」(一般土木建築工事業)といった、原材料・原油高騰の影響による声の他、「上向きな要素がありません」(一般土木建築工事業)といった厳しい業況へのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「原材料の高騰による価格の改定を客先に要請しているが、難航している」(ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業)、「鋳物・鋼材の値上げ要求が出てきた。当社の加工外注委託先でも、他者に仕事が薄くなってきているようだ」(その他の機械・同部分品製造業)といった、原材料高騰の影響のコメントが多く寄せられている。

【卸小売業】では、「良い条件はほとんど見られないように思う。強いて挙げれば、周辺地域でのマンション開発及び入居は、他地域に比べて盛んに思えるという点」(百貨店)、「弊社は柏の西北部にあり、企業の送迎バスが「柏の葉キャンパス」「おおたかの森含む」に移行している状況、おおたかの森駅の乗降客(乗り換え)が増加しているのが気になる、今後TX沿線を含めた会議所(会員)の存在・発展・企画を広域的(総合的)に配慮していただきたい」(その他の飲食料品小売業)、といった、商圈に関する声が寄せられた。また、「文具離れが見られる。購買力の低下は、低賃金にある」(書籍・文房具小売業)といった、消費者の購買力低下の声も寄せられた。

【サービス業】は、「不況により、正社員2名にて営業。柏地区においてアルバイトが集まりにくくなり、自給アップでも駄目。先月より社員が急に退社、社員見習(調理見習)も募集している。26年間柏で商売しているが、従業員の募集で初めて苦労している」(酒場・ビヤホール)といった人材不足に関するコメントが寄せられた。また、「仕入れ単価の上昇が続いています」(獣医業)との声も寄せられている。

○原材料高騰

「ガソリンの高騰は自分の会社としては、少しのマイナスですんでいると思う。発注の数から比べるとマイナスは少ないと思う」「原材料の価格高騰が響きだしている。売上はある程度好調」といった高騰の影響は今のところ比較的軽いとの声も寄せられているものの、各業種から多くの「6月中に度重なる原油の値上がりの様子。原材料等もさらなる値上がりか」、「原油高による原料値上げが再度あり、製品の値上げが難しくなっている」「原油価格高騰に伴いLPガス仕入れ価格も高値を更新し続けている現状である。仕入れコスト上昇分を小売価格に転嫁しきれない状況」「食料品を中心とした価格上昇が、消費者の購買意欲を削いでいるようである」といった原材料・原油価格高騰の影響の声が多く寄せられた。

○厳しい業況

建設業から「材料の値上がりを即顧客へ反映することは難しいので、自社が必然的に厳しい状況になる」「建築基準法の改正では、家が半分建つのが少なくなり、柏ばかりでなく全国的に少ないと思うが、建築数が少ない所に、輪をかけてまわらないので、建築関係者としては本当に参る状況」といった声が多く寄せられた。また各業種からも「最近同業者の倒産が目立ってきている」「状況は変わらず広範囲の材料価格高騰の影響は多大に出ている。連休後は非常に悪い状況で、5月の状況も昨年より悪い状態」といった、厳しい業況への声も寄せられた。

○売上微増

主に卸小売業から「10日から14日の低温で、売上が落ちたが、その後の気温の上昇とともに売上は回復してきた。セール等もあり、前年並の売り上げを確保している」「ゴールデンウィーク明け以降、天候に左右される日が多かったものの、売上高は前年を上回る推移となった。全体では婦人服・服飾雑貨のファッション系が苦戦しているが、大型店導入による工事休業が発生していたプラス要因が、全体を押し上げるかたちとなった」など、厳しい状況ながらもわずかに回復の声が寄せられている。また他業種からも「新築・リフォーム共に、増加の兆し。仕入れ単価の上昇に伴い採算は苦しいが、仕事量は増加している」、「市内ホテルの4月の状況としては稼働微増ながら、単価微減(対前年比)売上は対前年で微増にて終了」といったコメントも寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲27.8	▲35.7	±0.0	▲40.0	▲31.2
1月	▲32.9	▲46.6	▲20.0	▲34.4	▲33.3
2月	▲44.4	▲52.9	▲10.5	▲61.2	▲42.8
3月	▲40.5	▲57.1	▲22.2	▲54.8	▲18.7
4月	▲41.9	▲38.4	▲20.0	▲54.8	▲47.0
5月	▲34.2	▲42.8	▲5.2	▲40.7	▲50.0
見通し	▲22.3	▲7.1	±0.0	▲37.0	▲37.5

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成20年5月の業況についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.2(前月水準▲41.9)となり、マイナス幅が△7.7ポイント縮小した。

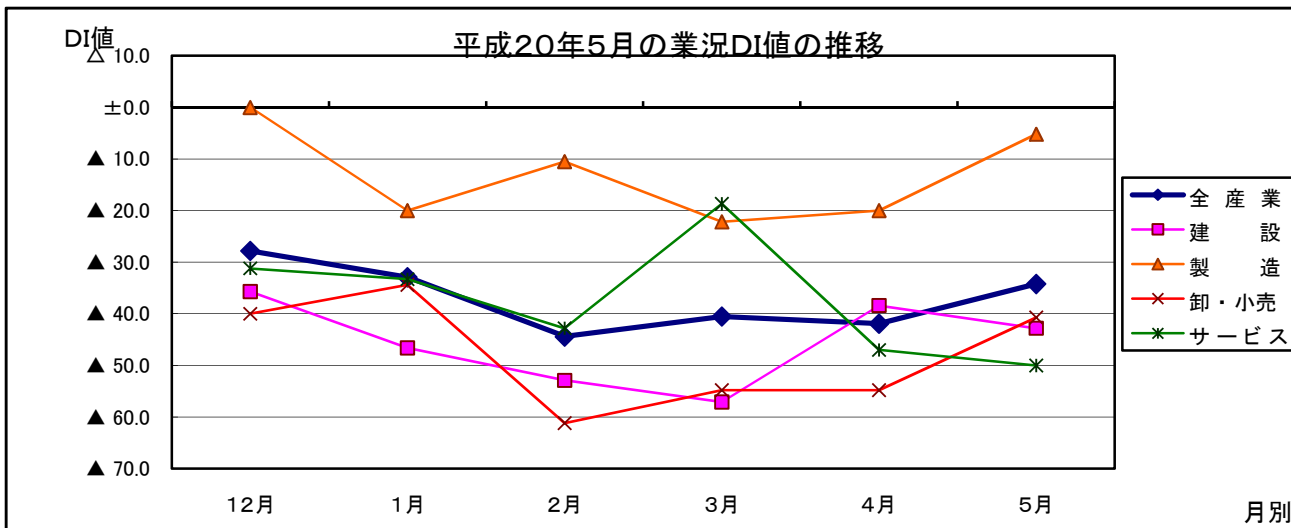
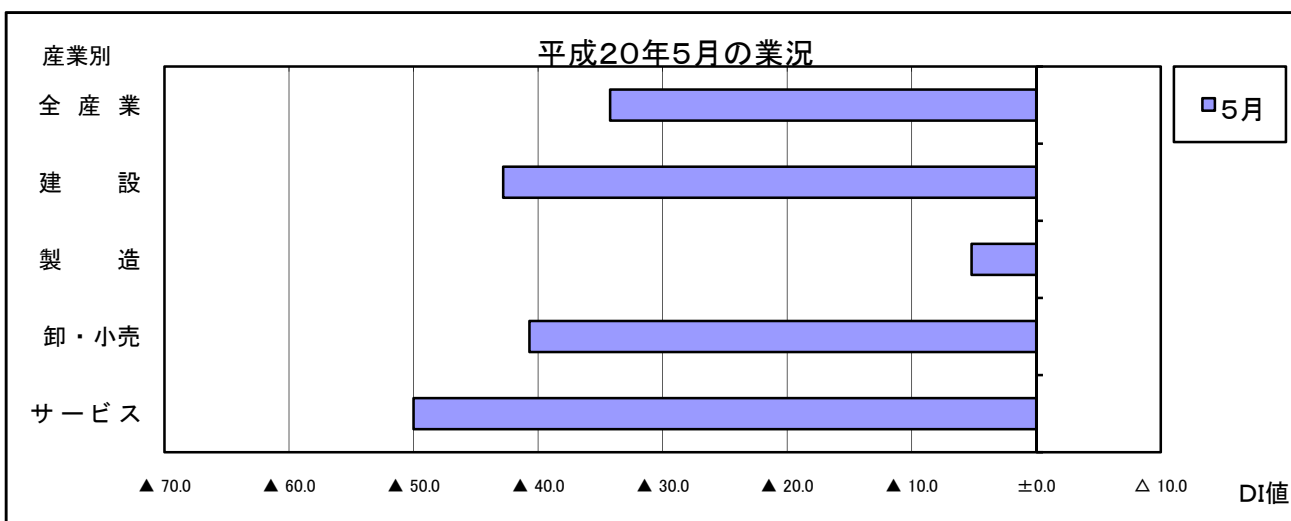
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲5.2(同▲20.0)、卸小売業▲40.7(同▲54.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲42.8(同▲38.4)、サービス業▲50.0(同▲47.0)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.3(前月水準▲29.6)となり、マイナス幅が△7.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲20.0)、建設業▲7.1(同▲15.3)、卸小売業▲37.0(同▲41.9)である。特に、製造業はマイナス幅が△20.0ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲37.5(同▲29.4)である。

平成20年5月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 12月	平成20年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲27.8	▲32.9	▲44.4	▲40.5	▲41.9	▲34.2	▲22.3(▲29.6)
建設	▲35.7	▲46.6	▲52.9	▲57.1	▲38.4	▲42.8	▲7.1(▲15.3)
製造	±0.0	▲20.0	▲10.5	▲22.2	▲20.0	▲5.2	±0.0(▲20.0)
卸・小売	▲40.0	▲34.4	▲61.2	▲54.8	▲54.8	▲40.7	▲37.0(▲41.9)
サービス	▲31.2	▲33.3	▲42.8	▲18.7	▲47.0	▲50.0	▲37.5(▲29.4)



【平成20年5月の売上についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.8(前月水準▲16.0)となり、マイナス幅が△4.2ポイント縮小した。

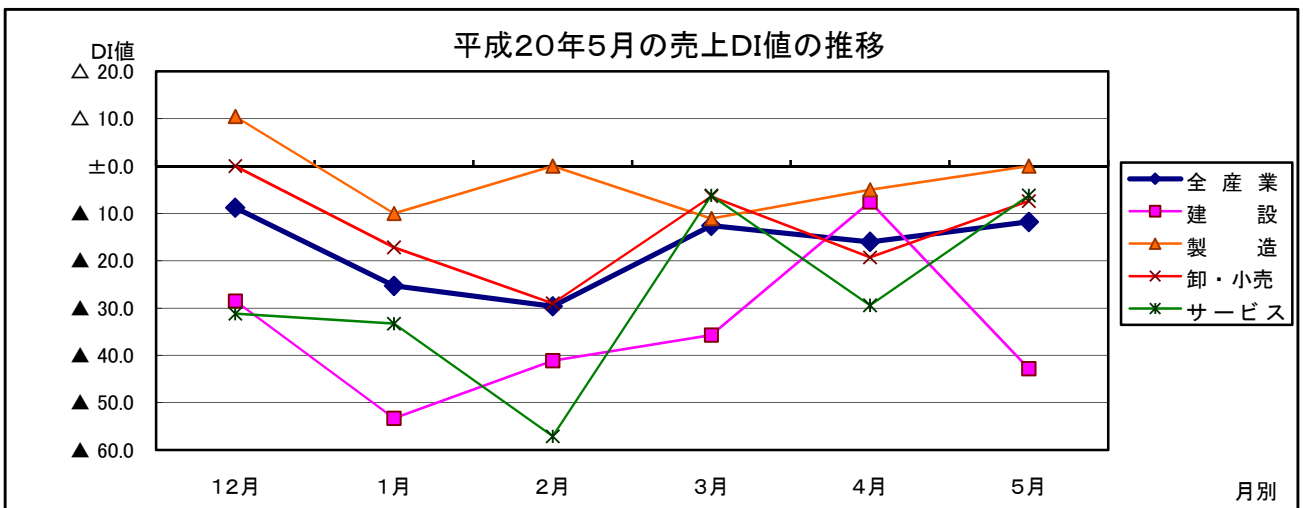
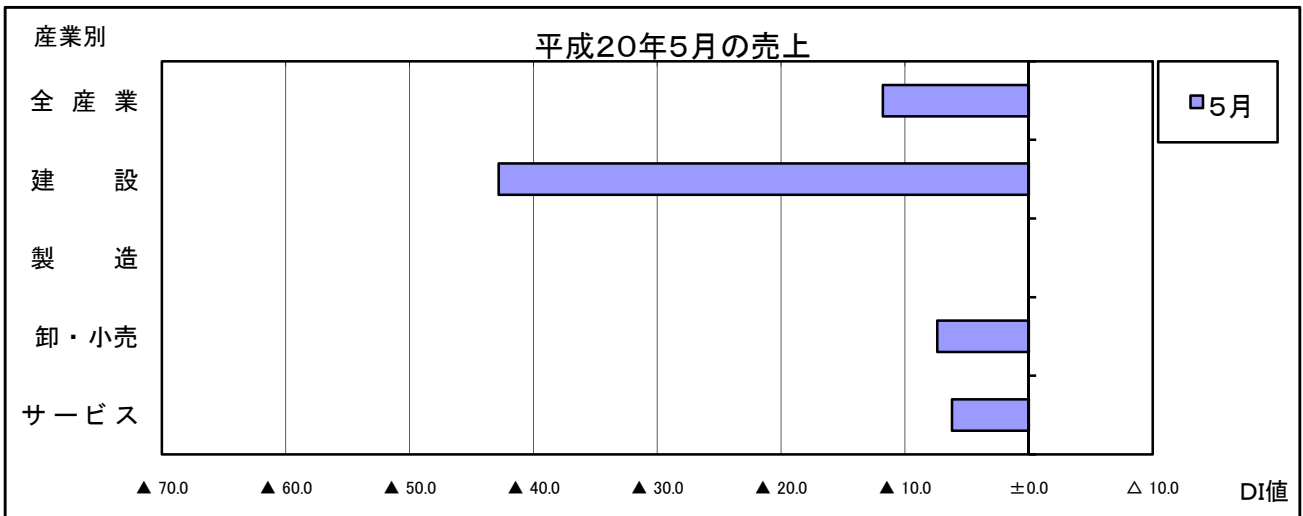
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.2(同▲29.4)、卸小売業▲7.4(同▲19.3)、製造業±0.0(同▲5.0)である。特に、サービス業はマイナス幅が△23.2ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲42.8(同▲7.6)であり、マイナス幅が▲35.2ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△2.6(前月水準▲13.5)となり、△16.1ポイント、マイナスからプラスへ転じる見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△26.3(同△5.0)であり、プラス幅が△21.3ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△7.1(同▲23.0)であり、△30.1ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲11.1(同▲25.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲6.2(同▲5.8)である。

平成20年5月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 12月	平成20年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲ 8.8	▲ 25.3	▲ 29.6	▲ 12.6	▲ 16.0	▲ 11.8	△ 2.6 (▲ 13.5)
建設	▲ 28.5	▲ 53.3	▲ 41.1	▲ 35.7	▲ 7.6	▲ 42.8	△ 7.1 (▲ 23.0)
製造	△ 10.5	▲ 10.0	±0.0	▲ 11.1	▲ 5.0	±0.0	△ 26.3 (△ 5.0)
卸・小売	±0.0	▲ 17.2	▲ 29.0	▲ 6.4	▲ 19.3	▲ 7.4	▲ 11.1 (▲ 25.8)
サービス	▲ 31.2	▲ 33.3	▲ 57.1	▲ 6.2	▲ 29.4	▲ 6.2	▲ 6.2 (▲ 5.8)



【平成20年5月の採算についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲38.1(前月水準▲46.9)となり、マイナス幅が△8.8ポイント縮小した。

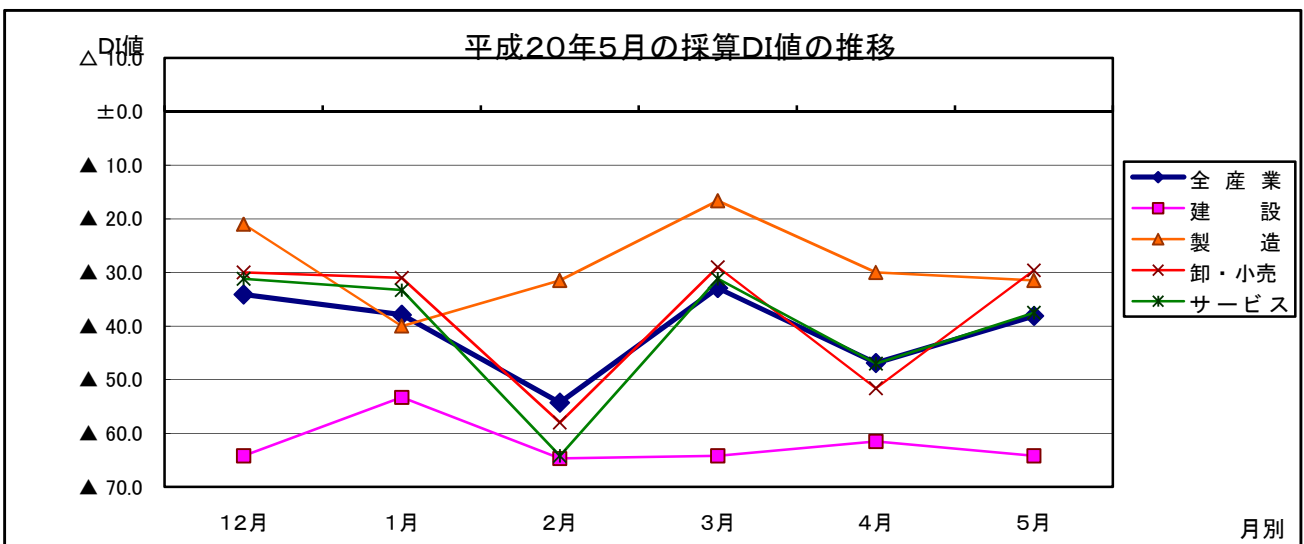
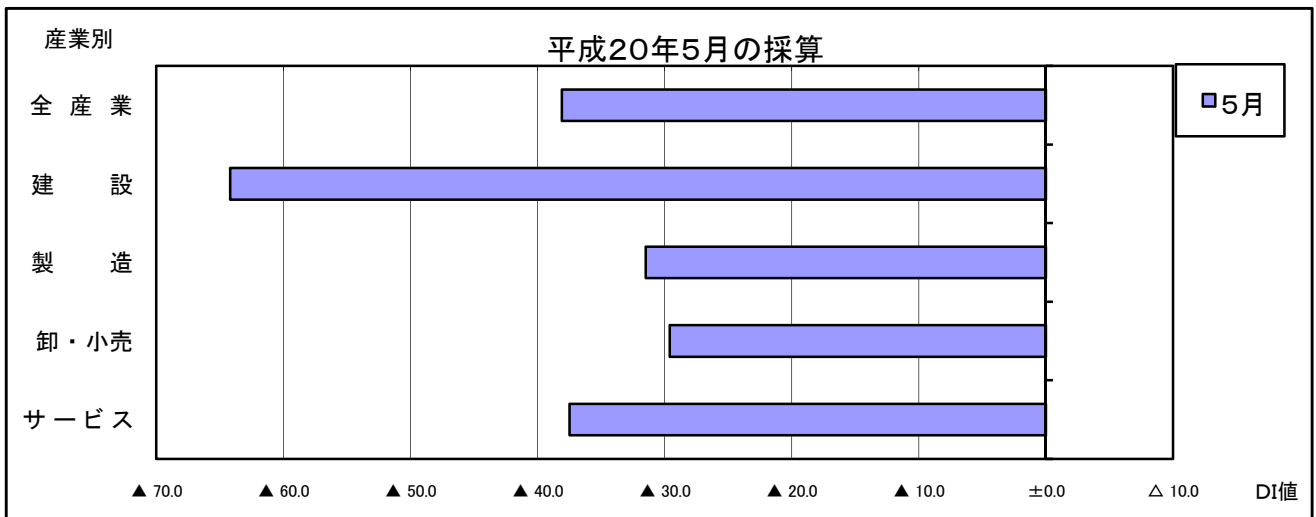
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲29.6(同▲51.6)、サービス業▲37.5(同▲47.0)である。特に、卸小売業はマイナス幅が△22.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲64.2(同▲61.5)、製造業▲31.5(同▲30.0)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.7(前月水準▲24.6)となり、マイナス幅が△8.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲14.2(同▲30.7)、卸小売業▲22.2(同▲35.4)、サービス業▲12.5(同▲17.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲10.5(同▲10.0)である。

平成20年5月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 12月	平成20年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲34.1	▲37.9	▲54.3	▲32.9	▲46.9	▲38.1	▲15.7(▲24.6)
建設	▲64.2	▲53.3	▲64.7	▲64.2	▲61.5	▲64.2	▲14.2(▲30.7)
製造	▲21.0	▲40.0	▲31.5	▲16.6	▲30.0	▲31.5	▲10.5(▲10.0)
卸・小売	▲30.0	▲31.0	▲58.0	▲29.0	▲51.6	▲29.6	▲22.2(▲35.4)
サービス	▲31.2	▲33.3	▲64.2	▲31.2	▲47.0	▲37.5	▲12.5(▲17.6)



【平成20年5月の仕入単価についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲69.7(前月水準▲66.6)となり、マイナス幅が▲3.1ポイント拡大した。

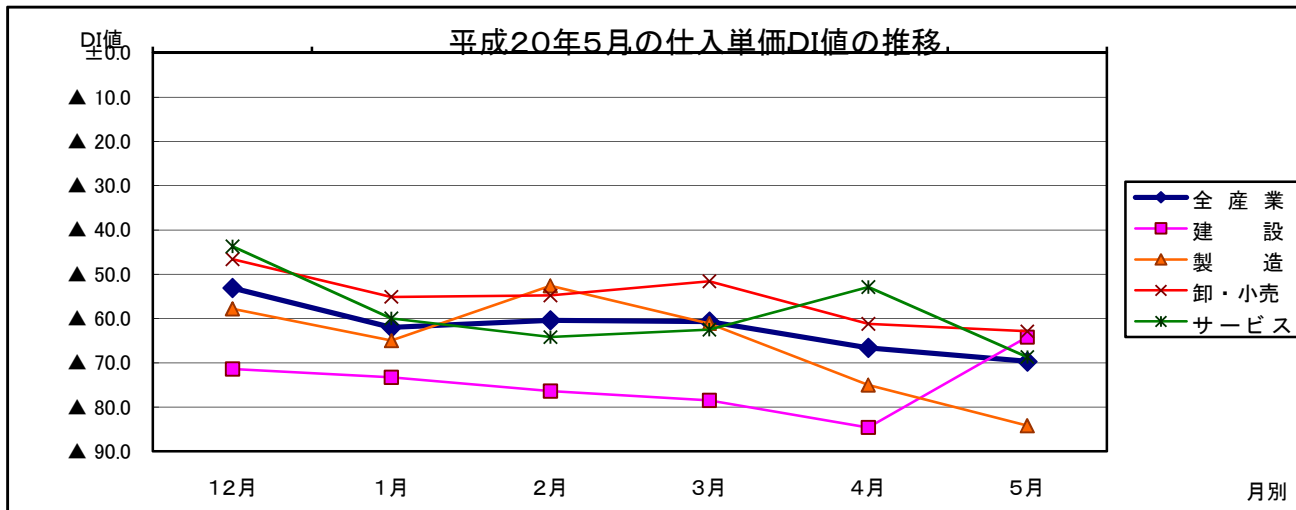
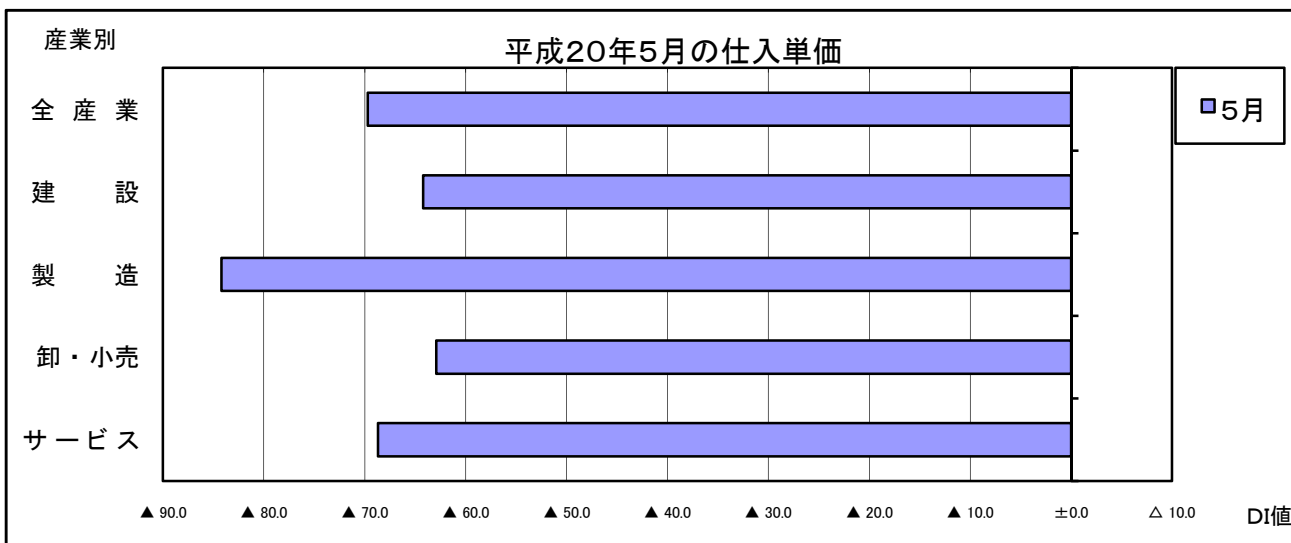
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲64.2(同▲84.6)であり、マイナス幅が△20.4ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲68.7(同▲52.9)、製造業▲84.2(同▲75.0)、卸小売業▲62.9(同▲61.2)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲57.8(前月水準▲58.0)となり、マイナス幅が△0.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、すべての業種において、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲50.0(同▲69.2)、サービス業▲50.0(同▲58.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲59.2(同▲48.3)、製造業▲68.4(同▲65.0)である。

平成20年5月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 12月	平成20年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲ 53.1	▲ 62.0	▲ 60.4	▲ 60.7	▲ 66.6	▲ 69.7	▲ 57.8 (▲ 58.0)
建設	▲ 71.4	▲ 73.3	▲ 76.4	▲ 78.5	▲ 84.6	▲ 64.2	▲ 50.0 (▲ 69.2)
製造	▲ 57.8	▲ 65.0	▲ 52.6	▲ 61.1	▲ 75.0	▲ 84.2	▲ 68.4 (▲ 65.0)
卸・小売	▲ 46.6	▲ 55.1	▲ 54.8	▲ 51.6	▲ 61.2	▲ 62.9	▲ 59.2 (▲ 48.3)
サービス	▲ 43.7	▲ 60.0	▲ 64.2	▲ 62.5	▲ 52.9	▲ 68.7	▲ 50.0 (▲ 58.8)



【平成20年5月の従業員についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△15.7(前月水準△4.9)となり、プラス幅が△10.8ポイント拡大した。

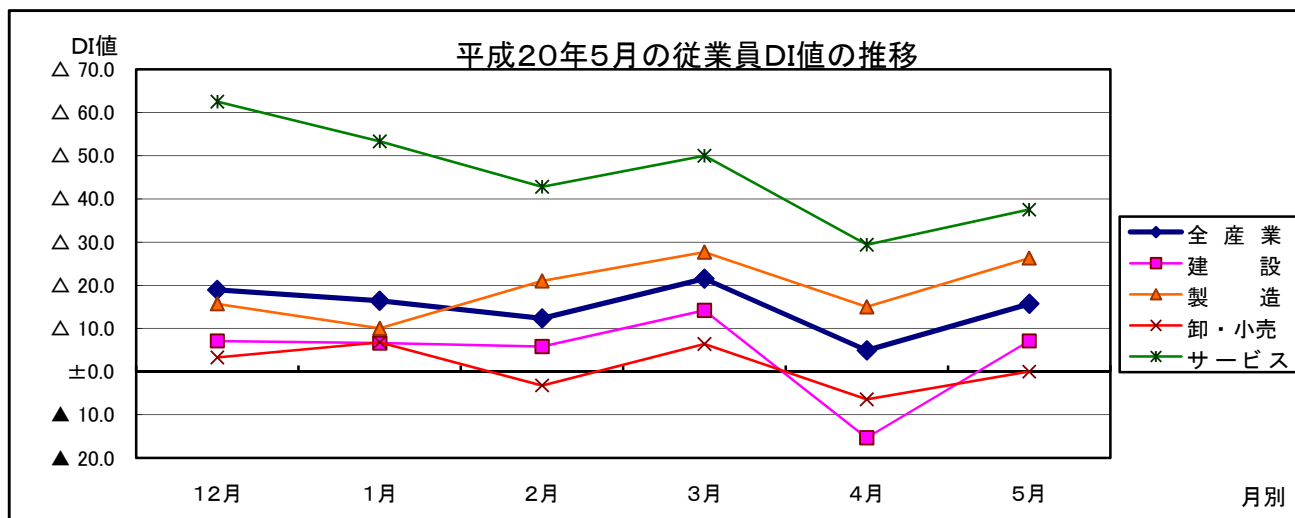
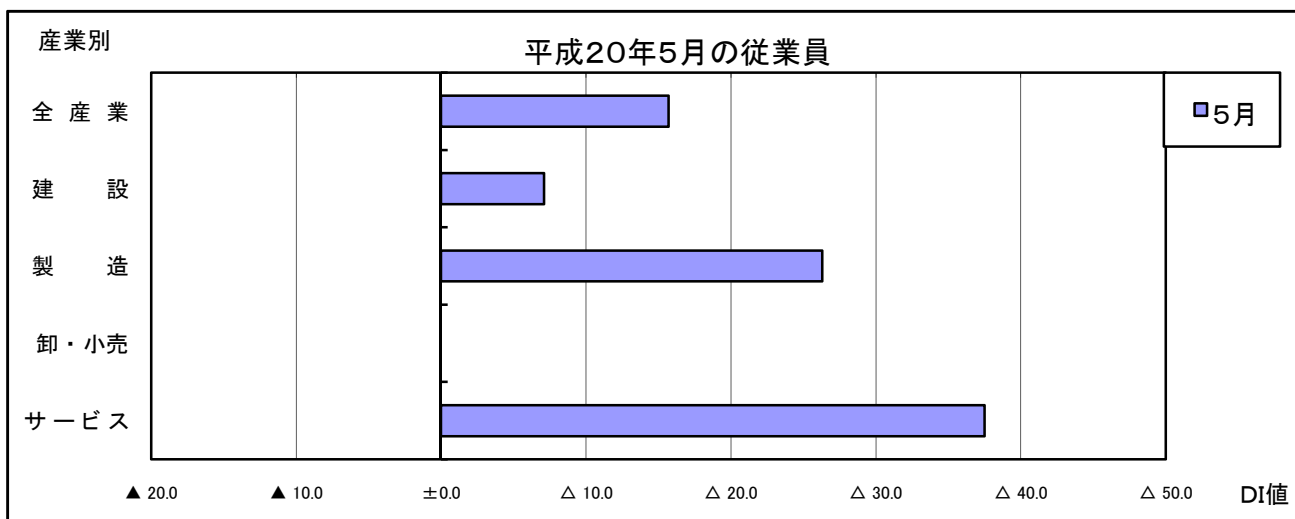
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業△26.3(同△15.0)、サービス業△37.5(同△29.4)である。マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△7.1(同▲15.3)であり、△22.4ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業±0.0(同▲6.4)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、△14.9(前月水準△4.9)となり、プラス幅が△10.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△37.5(同△29.4)、製造業△17.6(同△15.0)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△7.4(同▲9.6)、建設業△9.0(同▲7.6)である。

平成20年5月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 12月	平成20年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	△18.9	△16.4	△12.3	△21.5	△4.9	△15.7	△15.7(△4.9)
建設	△7.1	△6.6	△5.8	△14.2	▲15.3	△7.1	△7.1(▲7.6)
製造	△15.7	△10.0	△21.0	△27.7	△15.0	△26.3	△15.7(△15.0)
卸・小売	△3.3	△6.8	▲3.2	△6.4	▲6.4	±0.0	△7.4(▲9.6)
サービス	△62.5	△53.3	△42.8	△50.0	△29.4	△37.5	△37.5(△29.4)



【平成20年5月の資金繰りについての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、全産業では、▲15.7(前月水準▲17.2)となり、マイナス幅が△1.5ポイント縮小した。

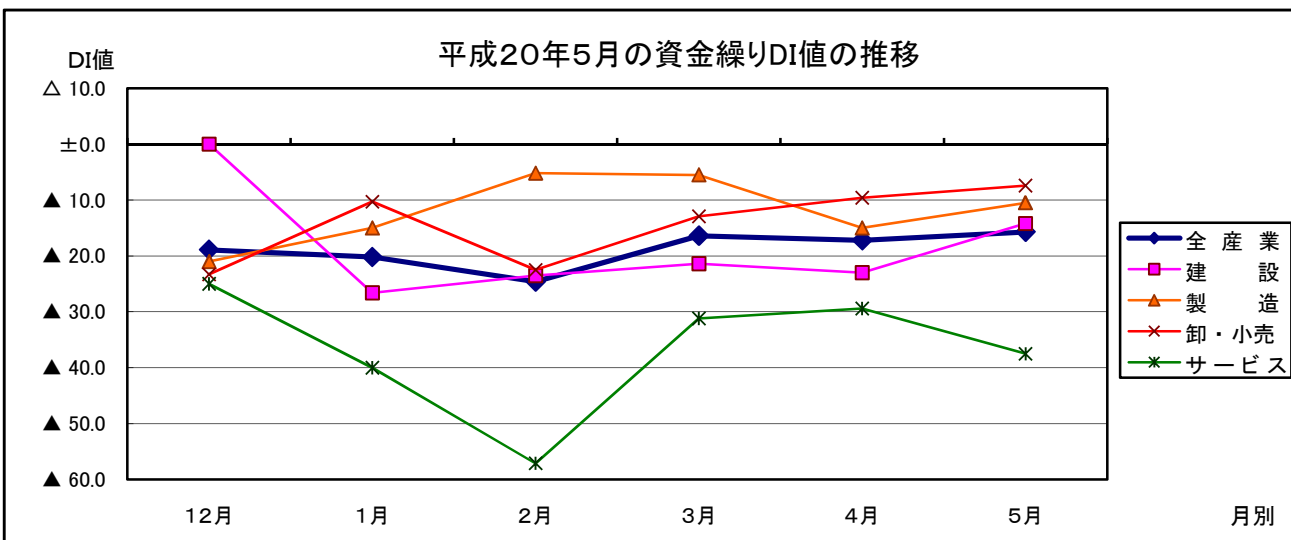
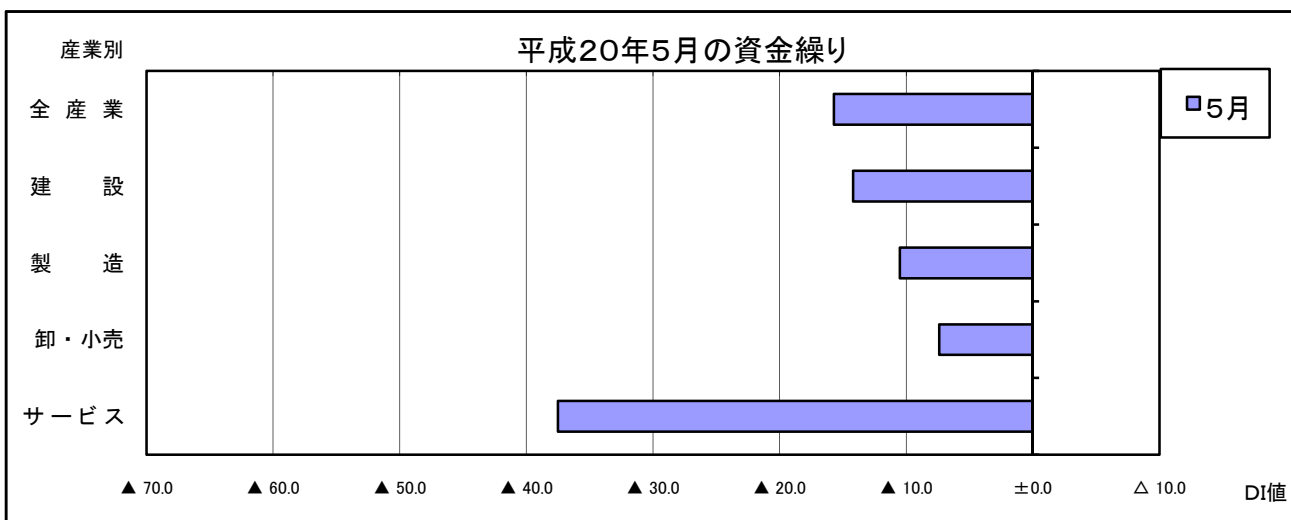
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲14.2(同▲23.0)、製造業▲10.5(同▲15.0)、卸小売業▲7.4(同▲9.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲37.5(同▲29.4)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.8(前月水準▲12.3)となり、マイナス幅が△0.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲11.1(同▲16.1)、製造業▲5.2(同▲10.0)、建設業▲7.1(同▲7.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲25.0(同▲11.7)である。

平成20年5月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成19年 12月	平成20年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲18.9	▲20.2	▲24.6	▲16.4	▲17.2	▲15.7	▲11.8(▲12.3)
建設	±0.0	▲26.6	▲23.5	▲21.4	▲23.0	▲14.2	▲7.1(▲7.6)
製造	▲21.0	▲15.0	▲5.2	▲5.5	▲15.0	▲10.5	▲5.2(▲10.0)
卸・小売	▲23.3	▲10.3	▲22.5	▲12.9	▲9.6	▲7.4	▲11.1(▲16.1)
サービス	▲25.0	▲40.0	▲57.1	▲31.2	▲29.4	▲37.5	▲25.0(▲11.7)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 11.8	△ 2.6	▲ 38.1	▲ 15.7	▲ 69.7	▲ 57.8	△ 15.7	△ 15.7
建設	▲ 42.8	△ 7.1	▲ 64.2	▲ 14.2	▲ 64.2	▲ 50.0	△ 7.1	△ 7.1
製造	±0.0	△ 26.3	▲ 31.5	▲ 10.5	▲ 84.2	▲ 68.4	△ 26.3	△ 15.7
卸・小売	▲ 7.4	▲ 11.1	▲ 29.6	▲ 22.2	▲ 62.9	▲ 59.2	±0.0	△ 7.4
サービス	▲ 6.2	▲ 6.2	▲ 37.5	▲ 12.5	▲ 68.7	▲ 50.0	△ 37.5	△ 37.5

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 34.2	▲ 22.3	▲ 15.7	▲ 11.8
建設	▲ 42.8	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 7.1
製造	▲ 5.2	±0.0	▲ 10.5	▲ 5.2
卸・小売	▲ 40.7	▲ 37.0	▲ 7.4	▲ 11.1
サービス	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 25.0

【平成20年5月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	発注時期になったものの、材料値上げで利益確保が難しい物件が多い	・原材料高騰 ・利益確保困難	一般土木建築工事業
	上向きな要素がありません	・好材料なし	一般土木建築工事業
	6月中に度重なる原油の値上がりの様子。原材料等もさらなる値上がりかな？	・原油高騰 ・原材料高騰	一般土木建築工事業
	材料の値上げを即顧客へ反映することは難しいので、自社が必然的に厳しい状況になります。	・原材料高騰 ・厳しい業況	板金・金物工事業
	建築基準法の改正では、家が大分建つのが少なくなり、柏ばかりでなく全国的に少ないと思いますが、建築数が少ない所に輪をかけてまわらないので、私達建築関係者は本当に参りました。早く何とかして頂きたいものです。ガソリンの高騰は自分の会社としては、少しのマイナスですんではないと思います。建築の数から比べるとマイナスは少ないと思います。	・建築基準法 ・建築数減少 ・原油高騰	その他の職別工事業
	当社の様に車を77台も所有していると、ガソリンの高騰は経費がかかり、今まで以上に採算が合わない場合が多くなりました。駐車場の確保、お客様の所に行った時の駐車料金も多くなっています。	・原油高騰 ・経費増加 ・不採算	家庭用機械器具小売業
	新築・リフォーム共に、増加の兆し。仕入れ単価の上昇に伴い採算は苦しいが、仕事量は増加している	・仕事量増加 ・仕入れ上昇	電気工事業
製造	業界全体では前年比101%の微増	・収益微増	清涼飲料製造業
	最近同業者の倒産が目立ってきている	・厳しい業況	紙製容器製造業
	原材料の高騰による価格の改定を客先に要請しているが、難航している	・原材料高騰 ・価格改定	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	原材料の価格高騰が響きだしている。売上はある程度好調。	・原材料高騰 ・売上好調	その他の鉄鋼業
	鋳物・鋼材の値上げ要求が出てきた。当社の加工外注委託先でも、他者に仕事が薄くなってきているようだ	・鋼材値上げ ・受注減少	その他の機械・同部分品製造業
卸・小売	原油高による原料値上げが再度あり、製品の値上げが難しくなっている。	・原材料高騰 ・製品値上げ困難	他に分類されない卸売業
	良い条件はほとんど見られないように思います。強いて挙げれば、周辺地域でのマンション開発及び入居は、他地域に比べて盛んであるかなという点でしょうか	・好材料なし	百貨店
	10日から14日の低温で、売上が落ちたが、その後の気温の上昇とともに売上は回復してきた。ナナコ1周年記念フェア(700円売上ごとにクジを引くセール)等もあり、前年並の売り上げを確保している	・天候の影響 ・売上回復 ・催事	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	弊社は柏の西北部ですので、企業の送迎バスが「柏の葉キャンパス」「おおたかの森含む」に移行している、おおたかの森駅の乗降客(乗り換え)が増加しているのが気になる、今後TS沿線を含めた会議所(会員)の存在・発展・企画を広域的(総合的)に配慮していただきたい、もちろんこの事は、会議所の想定内の予定をしていることでしょうか	・商圈の移行 ・TXの影響	その他の飲食料品小売業
	原油価格高騰に伴いLPガス仕入れ価格も高値を更新し続けている現状である。仕入れコスト上昇分を小売価格に転嫁しきれない状況で業界全体のM&Aが加速している	・原油高騰 ・価格転嫁	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)

【平成20年5月の業種別業界内トピックス】

	食料品を中心とした価格上昇が、消費者の購買意欲を削いでいるようである	・食料品値上げ ・購買意欲の低下	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	5月度GW期間中は入店客数は昨年を若干下回ったものの、売上高は2桁伸長した。GW明け以降、天候に左右される日が多かったものの、売上高は前年を上回る推移となった。全体では婦人服・服飾雑貨のファッション系が苦戦しているが、昨年7・8階大型店導入による工事休業が発生していたプラス要因が、全体を押し上げるかたちとなり、前年を上回る推移となった。23日には婦人服で3店舗新店が導入されることから、告知を強化し、月末の売上に繋げてゆく。	・ゴールデンウィーク ・天候の影響 ・売上増加	各種商品小売業
	若者の文具離れが見られる。どうも若者の購買力の低下は、低賃金または貯蓄にあるらしい	・購買力低下	書籍・文房具小売業
サービス	市内ホテルの4月の状況としては稼働微増ながら、単価微減(対前年比)売上は対前年で微増にて終了	・売上微増 ・原材料高騰 ・経費増加	ホテル
	原油・原材料の高騰から経費を圧迫するも、採算減までは至らず	・原材料高騰	そば・うどん店
	状況は変わらず広範囲の材料価格高騰の影響は多大に出ています。連休後は非常に悪い状況です。5月の状況も昨年より悪い状態です。	・業況悪化	酒場・ビヤホール
	昨年まで正社員3名アルバイト12名(1日に4~7名)が不況により、正社員2名にて営業。学生アルバイトの入れ替え時期になり、柏地区においてアルバイトが集まりにくくなり、自給UP900円でも駄目。先月より社員が急に退社、社員見習(調理見習)も募集しているが…若年層は3K業種が未だダメ。26年間柏で商売しているが、従業員の募集で初めて苦労して仕入れ単価の上昇が続いています。	・人材不足 ・仕入れ上昇	獣医業

【平成20年5月の多い景気キーワード】

◎原材料高騰

- ・ 発注時期になったものの、材料値上げで利益確保が難しい物件が多い。 (建設業)
- ・ 6月中に度重なる原油の値上がりの様子。原材料等もさらなる値上がりか。 (建設業)
- ・ 原材料の高騰による価格の改定を客先に要請しているが、難航している。 (製造業)
- ・ 原材料の価格高騰が響きだしている。 (製造業)
- ・ 原油価格高騰に伴いLPガス仕入れ価格も高値を更新し続けている現状である。仕入れコスト上昇分を小売価格に転嫁しきれない状況。 (卸・小売業)
- ・ 食料品を中心とした価格上昇が、消費者の購買意欲を削いでいるようである。 (卸・小売業)
- ・ 原油・原材料の高騰から経費を圧迫する。 (サービス業)
- ・ 仕入れ単価の上昇が続いている。 (サービス業)

◎厳しい業況

- ・ 材料の値上がりを即顧客へ反映することは難しいので、自社が必然的に厳しい状況。 (建設業)
- ・ 建築基準法の改正では、家が大分建つのが少なくなり、柏ばかりでなく全国的に少ないと思うが、建築数が少ない所に、輪をかけてまわらないので、建築関係者としては本当に参る状況。 (建設業)
- ・ 最近同業者の倒産が目立ってきている。 (製造業)
- ・ 当社の加工外注委託先でも、他者に仕事が薄くなってきたようだ。 (製造業)
- ・ 状況は変わらず広範囲の材料価格高騰の影響は多大に出ている。連休後は非常に悪い状況。5月の状況も昨年より悪い状態。 (サービス業)

◎売上微増

- ・ 新築・リフォーム共に、増加の兆し。仕入れ単価の上昇に伴い採算は苦しいが、仕事量は増加している。 (建設業)
- ・ 業界全体では前年比101%の微増。 (製造業)
- ・ 10日から14日の低温で、売上が落ちたが、その後の気温の上昇とともに売上は回復してきた。セール等もあり、前年並の売り上げを確保している。 (卸・小売業)
- ・ GW明け以降、天候に左右される日が多かったものの、売上高は前年を上回る推移となった。全体では婦人服・服飾雑貨のファッション系が苦戦しているが、大型店導入による工事休業が発生していたプラス要因が、全体を押し上げるかたちとなった。 (卸・小売業)
- ・ 市内ホテルの4月の状況としては稼働微増ながら、単価微減(対前年比)売上は対前年で微増にて終了。 (サービス業)











平成20年5月のCCI - LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲34.2に対し、「CCI-LOBO」が▲52.9で、マイナス幅が18.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は建設業・製造業・卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.8に対し、「CCI-LOBO」が▲41.5で、マイナス幅が29.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が、全ての業種において10ポイント以上良くなっている。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲38.1に対し、「CCI-LOBO」が▲50.4で、マイナス幅が12.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は製造業・卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲69.7に対し、「CCI-LOBO」が▲55.7で、マイナス幅が14.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△15.7に対し、「CCI-LOBO」が▲6.5で、22.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.7に対し、「CCI-LOBO」が▲31.0で、マイナス幅が15.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業。







平成20年5月の柏の景気天気図








柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較







景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 34.2	 42.8	 5.2	 40.7	 50.0
CCI LOBO	 52.9	 65.0	 49.0	 52.6	 50.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 11.8	 42.8	 ±0.0	 7.4	 6.2
CCI LOBO	 41.5	 58.6	 29.9	 46.5	 39.9


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 38.1	 64.2	 31.5	 29.6	 37.5
CCI LOBO	 50.4	 63.5	 50.6	 46.9	 50.0

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 69.7	 64.2	 84.2	 62.9	 68.7
CCI LOBO	 55.7	 70.1	 63.2	 48.2	 51.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.7	 7.1	 26.3	 ±0.0	 37.5
CCI LOBO	 6.5	 21.3	 6.2	 0.6	 5.4

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 15.7	 14.2	 10.5	 7.4	 37.5
CCI LOBO	 31.0	 47.6	 31.3	 24.9	 29.4

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(5月速報)

調査期間：平成20年5月19日～23日
 調査対象：全国の404商工会議所が2580業種
 組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況 業況はさらに厳しい状況 仕 入単価D Iも低水準で推移

5月の業況をみると、全産業
 合計の業況D I(前年同月比)ベ
 ース(以下同じ)は、5年ぶりに
 マイナス50台を記録した
 前月水準(504)よりマ
 イナス幅が2.5ポイント拡大
 し、52.9となり、さらに厳しい
 状況となった。

産業別の業況D Iは、建設
 製造、サービスでマイナス幅が
 拡大し、他の2業種も引き続き
 低水準で推移している。

景気に関する声、当面する問
 題としては製造など一部に好
 調(鉄鋼、機械関係の受注増加
 等)、先行き期待という声があ
 るものの、仕入価格の高騰に伴
 う採算の悪化、消費の低迷によ
 る売上の減少などを訴える声
 が多く聞かれる。

【建設業】「公共工事の削減に
 伴う受注減少の影響により、今
 後も倒産が発生する見込み」
 (一般事業)、「道路特定財
 源の国会議決遅れの影響によ
 り、工事の発注が例年比へ遅
 く、売上は予想以上に悪化」
 (一般事業)、「民間工事の
 競争激化に伴う受注価格の低
 下により、収益は減少」(建築
 工業)

【製造業】「仕入先から材料・
 部品等の値上げ要求が続く一
 方、受注の増加は見込めず、収
 益確保が困難な状況」(金属加
 工機械製造業)、「原材料価格
 の高騰に対し、販売先からはコ
 ストダウンの要請があり採算
 が悪化」(電気機器製造業)、「
 小麦・穀物価格が上昇基調で
 あり、先行きが不安」(他の食
 料品製造業)

【卸売業】「仕入価格の上昇が
 続いているが、売上悪化の懸念
 から販売価格への転嫁は難し
 い状況」(食料・飲料卸売業)、「
 食料品価格の上昇に加え、原
 油価格の高騰により物流コス
 トが上昇し、採算が悪化」(各
 種商品卸売業)、「商品の動き
 が鈍化し、仕入の抑制と在庫の
 軽減に努めるなど、先行きが不
 透明な状況」(衣服・日用品卸
 売業)

【小売業】「食料品を中心に各
 商品の値上げが相次ぎ、更なる
 採算の悪化を懸念」(百貨店)、「
 昨年同月比へ来客数・売上
 とともに減少し、閉店も発生」
 (商店街)、「原材料価格高騰
 の影響により値上げ商品が増
 加し、売上は減少傾向」(そ
 他の小売業)

【サービス業】「仕入価格の高
 騰分を価格転嫁する店が見ら
 れる一方、売上の減少により廃

業も増加するなど、厳しい状
 況(食卓・レストラン)、「軽
 油価格の高騰分を運賃に転嫁
 できず、経営を圧迫」(運送
 業)、「ゴルフデンウィーク中
 の宿泊客数が昨年比へ減少
 する一方仕入価格の高騰によ
 り採算は悪化」(旅館)

五月のキーワード

更なる悪化への懸念

各業種から業況の悪化に伴
 う先行き不安を訴える声が寄
 せられている。建設からは、「
 今年度の公共事業予算が激
 減しているため、厳しい年とな
 る見込み」(甲府・建築工業)
 とのコメント、製造からは、「
 6月より印刷用紙の15%
 以上の値上げが予定されるな
 ど、非常に厳しい状況」(佐
 賀・印刷業)との声が寄せられ
 ている。また、小売、サービス
 から、「競合他社が大型店を
 出店予定のため、売上は減少と
 なる見込み」(倉敷・百貨店)、「
 原油・原材料価格の高騰は、
 お中元ギフトの価格にも影響
 しており、受注件数の減少を懸
 念」(盛岡・百貨店)といった
 コメントが寄せられている。

仕入コストの更なる上昇

各業種から原材料価格の高
 騰による仕入コストの上昇を
 訴える声が続けられている。建
 設からは、「原油・原材料価格

の高騰が著しく、収益が大幅に
 減少」(福岡・建築工業)と
 のコメント、製造からは、「高
 止まりしていた鋼材価格が再
 高騰しており、採算の悪化を懸
 念」(相模原・金属加工機械製
 造業)との声が続けられてい
 る。また、小売、サービスから
 も、「チラシや包装紙・袋類の
 値上げに伴う経費の増加によ
 り、採算が悪化」(山形・百貨
 店)、「食材やガソリンなど諸
 経費の高騰が続く、厳しい状
 況」(四国中央・他の一般飲食
 店)といったコメントが寄せら
 れている。

消費意欲の低下

原油価格の高騰や、食料品を
 はじめ各種商品の値上げに対
 する不安感から、消費者の購買
 意欲の低下による売上悪化な
 どの影響を挙げる声も寄せら
 れている。小売からは、「衣料
 を中心に、売上額、販売数とも
 に減少」(大洲・百貨店)、「食
 料品や生活用品の価格上昇に
 伴い、個人消費の低迷が続く見
 込み」(金沢・商店街)、「特に
 高級品の販売が不振で、割安感
 のある商品に人気が集まって
 いる」(京都・商店街)とのコ
 メント、サービスからは、「来
 客数は前年並みだが、売上は減
 少傾向」(鎌倉・食卓・レスト
 ラン)、「消費者の節約意識に
 加え、低料金店との競争による
 売上の減少を懸念」(上越・理

容業)といったコメントが寄せ
 られている。

全国・産業別業況D Iの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲40.8	▲57.3	▲34.9	▲44.9	▲39.0	▲37.1
1月	▲47.9	▲58.1	▲40.4	▲55.6	▲49.2	▲44.5
2月	47.5	57.7	40.3	57.7	49.1	42.7
3月	▲46.9	▲59.4	▲41.3	▲47.3	▲48.4	▲43.3
4月	50.4	64.6	43.1	53.6	52.8	44.4
5月	▲52.9	▲65.0	▲49.0	▲49.1	▲52.6	▲50.6
見通し	▲48.2	▲61.1	▲46.7	▲41.1	▲46.9	▲45.8

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I